

第15回本町田ひなた小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2026年7月22日（水） 9:30～11:30	
開催場所	町田第三小学校 3階図書室（ウェブ会議併用）	
	委員	多田委員、渡辺委員、渡邊委員、安藤委員、永井委員、手塚委員、野口委員、小原委員、湯目委員、平本委員、坂之上委員、大谷委員、○隅田委員、◎清水委員 （◎会長 ○副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、企画政策課
傍聴者	なし	

議事内容

1 第14回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1 説明）

2 報告事項

（1）通学の安全対策について

学務課 （資料2-1-1、2-1-2、2-1-3 説明）

委員 バスの通学練習の時期はいつごろか。

学務課 資料2-2-1にスケジュールを掲載している。11月から12月にかけて実施したい。

委員 安全点検の実施時期と学校側の参加者を教えてほしい。

学務課 昨年度協議会で実施したワークショップを踏まえ、2026年3月に合同安全点検を実施した。教育委員会のほか、学校関係者として校長に出席をいただき、道路管理者や警察と共に点検を実施した。

会長 雨天で点検であったため、悪条件下の通学路を確認できたことはよかった。

（2）中学校の新たな学校づくりの進捗について

新たな学校推進課 （資料2-2-1、2-2-2 説明）

（3）児童の様子について

会長 開校から1年4ヶ月が経った。路線バス通学の児童は7時49分と8時14分にバスが到着する。8時14分のバスはやや遅れ気味で、20分くらいに着いてしまうこともあるが、子どもたちもだいぶバス通学の習慣に慣れてきて、8時25分からの朝会には、全員集合できるようになった。朝会では、静かに集中して聞くことも習慣づき、私

も話しいがある。朝会では子どもたちの活躍を紹介すると、児童から拍手が自然とわき起こり、良い雰囲気であった。

先日第2回のひなた祭り開催した。学級ごとにどのような遊びをするか決めて、1日自分たちのお祭りを開いています。スライム作りやゲーム、的当てなどがある。後片付けまでがひなた祭りということで、子どもたちは努力していた。工夫をこなしたコーナーがいくつもあり1日で終わってしまうのは本当にもったいないと思うくらいだった。

そんな時に、ひなた祭りの経験を活かして町三小と交流をしようということで、ひなた祭りの次の週に3年生が交流した。全校で実施するとどうしても、5年生、6年生のゲームコーナーや教室に人気が集まるが、町三小の3年生全員がお客さんであり、ひなた小の3年生は大喜びであり非常に良かった。次の日には4年生が同じく交流した。みんな別れを惜しんで体育館の外に出て手を振っていた。別れを惜しむ関係になれたというのはとても良かった。このように交流する機会があり、私自身すごく良かったと思う。

避難訓練として不審者対応訓練を実施した。担任はカーテンを閉めて教室内が見えないようにし不審者を刺叉で捕まえに行く。子どもたちは机を廊下側に移動させ、出入口にバリケードを作る。廊下の反対側に移動して静かにして気配を消す、ということをやっている。

是非今後とも、町三小との交流を進めたり、町三小と授業見学を重ねたりしながら、関係を続けていきたいと思う。

副会長

今年度は両校が、相互の交流を通して相互理解を一層深めようということが、年間の大きな目標である。そのトップバッターとして、中学年がひなた小にお邪魔をし、素敵な歓待をいただいた。私たちもお客さんとして喜んだが、その時に私が見ていたのは、子どもたちの自己有用感というのか、自分たちがお客さんに喜んでもらったことが、自分自身の大きな喜びになりそれが成長につながる。ひなた小の子たちのそのような姿も、すごく嬉しく拝見した。また、町三小の子たちも、ひなた小は面白い取り組みをやっているな、ということで喜んで帰った。

本校は子ども祭りをやっておらず、今回のお返しとして、秋の学芸会、8割が出来上がったリハーサルの直前ぐらいに、ひなた小の3年生と4年生に来てもらい、ぜひ私たちの演技を見てもらい喜んでもらおうと、約束をしているところだ。それ故に、夏休みの今は、先生たちが台本選びから必死に頑張っているところだが、子どもたちの活躍する姿をひなたの子たちにぜひ見てもらい、三小の子たちも頑張っているなと思ってもらえると思う。

このように3・4年生の交流がスタートしたが、1・2年生5・6年生もそれぞれの担任同士が相談をし、どんな形で交流をするか、これから詰めていくところだ。来年度になると様々なところで、より実際に近い形でのすり合わせと交流が深まっていくということを想定している。

今私たちが一番懸念しているところは、やはり交通安全の部分である。他県の話だが、立て続けに通学時の死亡事故があった。本当に痛ましい事故であり、いずれも横断歩道を横断中ということであった。早速翌日の児童朝会の時に、全校児童に改めて交通安全のことについて訴えたが、7月16日の木曜日に町田第三小学校安全委員会という名称で、地域の朝の見守りをしてくださる皆さん。それからPTAの代表の皆さん。それから町田警察署の皆さん。あるいは町田市の通学路を管轄している学務課や新たな学校づくり推進課の皆さんにもお越しいただき、年間3回を目途に昨年度立ち上げた組織である安全委員会を開催した。

現状の子どもたちの安全を、しっかりとまずは守るところから始める。今後、より大きな学区域になり、子どもたちの安全を確保した新しい学校の通学路を、これから決めていく。安全確保をするためにどのような指導・体制が必要か、どのような支援を警察や町田市からいただくかを相談をしている。本校周辺は鎌倉街道をはじめ、非常に多くの車が行き交っている。また自転車も多く通っており、現状、子どもたちの安全な通学を保っていくためには、様々な課題を抱えている。それら一つ一つをまずはしっかりと対応していきながら、新しい学校にどのように広げていくか、と動いていくように思う。

先ほどの説明に、親子通学練習があった。これは以前私がいた、南第二小でも行ったが、その後のアンケートは非常に重要な情報であった。私たちが通学路を捉えるときには、40人という一つの大きな括りで子どもたちの流れを掴むが、実際にはドアtoドア、一人一人、一軒一軒の家から、子どもがどのように安全に学校までたどり着くか、そして学校から家に戻っていくか。これら全ての安全確保を怠ってはいけない、と思っている。そのような意味でも、学校からのアンケートというのは非常に貴重な情報であった。

また、今年度と来年度の2年間にかけて、PTAと学校で、閉校に向けてのイベントについて相談をしている。いろんなアイデアの中で、手作り感を出すことで多くの保護者に協力をいただきながら、子どもたちの思い出に残るものをやりたい。来年度いよいよ学校を閉じる段に、またPTAと学校で連携しながらイベントをやる話が出ている。学校としても、できるだけ子どもの発想を活かした最後の一年にしたいと思う。町三小としてやるべきことをやり切り、楽しみにしているひなた小の一員になっていく。そのような良い流れでこの2年間を過ごしていきたい。今後も皆さんのご協力ご支援のもと、最後まで町三小は町三小としての良さを発揮していきたい。

先週の土曜日に、いなほ会の盆踊りがあった。本町田音頭を披露してくださり、新たなひなた小学校の子どもたち誰もが歌えて踊れるようになっていくと良いと思う。2つの学校が一緒になり、この大きな本町田という町が一致団結する。子どもたちがまず団結するので、地域の皆さんも一緒に本町田を盛り立てていけたら良いと思う。

3 検討事項

(1) 通学負担の軽減に関する検討の進捗

学務課

(資料3-1、3-2説明)

- 委員 ABCの3ルートがある中で、マイクロバス想定になっているCルートは、道路の車両通行制限等の関係でマイクロバスを選定しているのか。それとも当初の見込みの人数から大型は必要ないという判断であるのか。
- 学務課 こちらの使うバスの車種は、見込みの人数で判断をしており、現在の検討の中ではCルートについてはマイクロバス想定をしている。
- 委員 朝のバスは2周するが、2周目でも遅刻をして乗り遅れた児童は歩いていくのか。また、家に帰っても両親がいない場合にはどうしたらよいのか。また、児童が集まる場所である停留所に、大きな看板等でその旨を近隣に周知するのか。児童が集まったところの見守りは、保護者の当番制であるのか。子どもたちが事故のないようにバスを待つ時間帯等、停留所の運用について伺いたい。
- 学務課 まだ検討段階だが、停留所には見守り員の配置を検討している。また、万が一乗り遅れてしまった場合には、そのまま学校に向かっていただくしかないと思う。停留所の周知については、対象者に場所を伝えるとともに、必要に応じた近隣の町内会・自治会や地域に対しての情報提供は、機会を捉えて行う予定だ。
- 委員 スクールバスが出るということを、周りの地域の方や友人や、支援されている方の中で、我々委員はこうして段階を踏み、いろいろ協議会の中で議論をしており理解しているが、周りの方はどうしても十分な理解ができているとは言い難い。例えば、バスに乗れるのか、2キロ圏内は乗れないのか、対象範囲からギリギリであったり、非常に遠い等々、懸念を抱く方もおり、資料にあるような表を見れば理解しやすいかと思う。これから説明会も実施予定であると思うが、どこまでは我々委員が知人等に話をしてもよいのか。分からないことがあれば、市役所の担当課を紹介してもよいのか、非常に迷うことがある。今後、情報を伝達する上でも、アドバイスいただきたい。
- 新たな学校推進課 現在は、スクールバスが出るという事実だけを地域の皆様も含め説明をしている。例えば2キロ以上等、詳細を教育委員会が説明をしている現状ではない。故に、各戸が対象かどうかについて保護者が混乱される事は想像がつく。二学期の保護者会や、通学域緩和制度の学校説明会等、学校選択が大きく変わる可能性もあるので、様々な場で説明の機会を教育委員会と学校で調整し、保護者の皆様にご理解いただけるように情報を発信していきたいと思う。
- この推進協議会資料は公開されているため、お伝えいただいて問題はないが、距離の話など細かな部分があるかと思うので、迷わず新たな学校づくり推進課や学務課にお問い合わせくださいとご紹介いただきたい。
- 委員 利用方法等については、今後の課題になってくると思うが、保護者として一番周知してほしいのは、スクールバス・公共機関・徒歩に関わらず、基本的に登下校は保護者の責任である、というところを前面に出していただきたい。理由として、現在、旗振りをやる人が本当におらず、ボランティアの方に頼りきりである。保護者の中には、見守りがいるから任せきりであると思っている人もおり、保育園や幼稚園から上がり、小学生だから一人で通えるというわけではなく、バスに乗るなら、乗るまで見守るとか、乗り遅れたらどうするか等、親の責任だと思う。現状、登校の安否確認等の矛先は先生たち

に行くような気がする。子供の登校を見守る中で、スクールバスだけならば登校を通知するシステムが作れたりするかもしれないが。

今、校外委員会もないので通学路は各家庭で決めていると思う。以前は子ども会があり、通学路を指定していた。うちは団地の方だったので、団地ごとに通学路を決めて、そこを通るのが最低限のルールであったが、現在は様々なルートで通っており、事前に家庭での話し合いがないと事故が起きかねないと思う。

スクールバスとか出していただくのは、非常にありがたい話ではあるが、その前に保護者の意識づけ、その辺は前に出して強く伝える方がいいと思う。

新たな学校推進課 通学の責任が保護者にあるという点はその通りの解釈になる。ただ、それだけを理由に我々の責任がないというわけではなく安全対策等も実施する。親子通学練習会はそのような趣旨を伝えるための取り組みであると思う。保護者が子どものことを考えながら、どの経路を通るのかについて、実際に一緒に歩いて危険箇所を確認する、タイミングを設定していることはそのような意義もある。

今いただいたご意見も踏まえながら、保護者の皆様に通学の経路等をご案内する際には説明をしていきたいと思う。

会長

今のご意見の中で私が感動したのは、一緒に考えていきたい、誰かに任せれば安心とか、どこかにやってもらうとかではなく、統合に向けて通学路を一から見直すときに、学校の意見、教育委員会の意見、そして保護者の方の意見。これを3つ寄せ集めるということが一番大事であり、スクールバスにしろ、路線バスにしろ、徒歩にしろ、一番いいと思う通学路を決めていきたい。その中で、家庭の相談に乗っていき、3者が協力し合いたい。今後ともそのような率直な意見を伺いたい。

※ワークショップ実施

次回開催日程 2026年10月2日（金曜日） 9時30分 本町田ひなた小学校